

週報

こひつじ

第39巻 47号
 大津キリスト教会
 菊池郡大津町室 119
 TEL 096-293-4470
 FAX 096-293-4961
 牧師 米村 英二

わたしが去るのは益

その二 失うことは益である

「失うことは益である」というるすべてを失ったとき、目に見え
 真理は、さまざまなところで見られない神を見たのだ。
 える。

たとえばイスラエル民族のことから解放され、より深く内面的な
 だが、紀元前五八八年にエルサレムのへと発展していったと言われ
 ムが陥落すると、彼らの大半が捕まっている。

囚の身となってバビロンに連れゆ そういう意味では、彼らもまた
 かれる。 見えるものを失ってよかったのだ

それは民族にとって一大転機だ ある。 失うことの益は、われわれの体
 った。

彼らは、そのとき祖国を失った 験でもあるのではないか。それは
 だけでなく、彼らの宗教の中心で 私にもあった。

あった神殿や祭司による宗教制度 私は、スプアという婦人宣教師
 もみな失ったのである。 を通して信仰に導かれた。一六歳

彼らはその後、どのようにして の時である。彼女は私に多くの時
 信仰を保ったのか。 間を使ってくれた。私の彼女に對

驚くことに、彼らは、目に見え する尊敬と信頼は絶大だった。

ところが数カ月後、彼女は、あ ことなのではないかと。
 る事情で、突然カナダに帰国する ほんとうの意味で私の心を満た
 ことになった。いくつもの教会か すのは、神以外にはない。そう思
 ら大勢の人が見送りに来た。私よ った瞬間、私の心は神の慰めでい
 り長く彼女を知っている人たちば っぱいになった。
 かりだった。一人ひとりに親しく 宣教師は意図的にそれをしたの
 声をかけている彼女が私には遠く ではなくっただろう。が、その経
 に感じられた。

その中に私よりずっと早く信仰 をもち、宣教師とも親しい先輩の
 高校生がいた。宣教師は写真を撮 りたいから、前に立つようにとそ
 の先輩に言った。彼は親切にも、 「米村君、いっしょに撮ってもら
 おうよ」

と声をかけてくれた。ところが 宣教師は、彼ひとりの方がいいの
 だと言う。きつとひとりずつ撮る のだと私は思った。しかしそのあ
 と自分に声がかかることはなかつ た。

何だ、それだけのことかと思わ れるだろうが、それは私には大き
 な教訓だった。 傷つきはしなかったものの、私
 はそのとき思った。

過度に人を愛したり、人に頼つ たり、期待したりするのは危険な
 からであろう」と。

それは彼が死をくぐりぬけるよ うな大病をしたあとだったと言う。

退院の日、家に帰る途中、樟の大木の新緑がきらきら輝いているのを見て、彼は感動する。そしてこう言う。

「この地上とは、惰性で無感動に生きている場ではない。・・この一回きりの生を、両腕にひしと抱き、

熱烈に、本気で生きなければ、もうそれは二度と味わうことができないのだ。私は痛切にそう思った」と。

作家辻のこのような体験も、自分の健康を失って初めて見いだされたものではなかったろうか。彼にとっても、失ったことは、やはり益だったのである。(終)

今日の礼拝

○第一礼拝は午前10時から、第二礼拝は午前11時から。○教会学校は午前10時から。○説教は西岡潤也さん。

先週の礼拝

○司会は林田実季さん、奏楽は吉岡隆夫さん。

○説教は米村牧師。申命記一八の九一二の言葉から。占いをする者に伺いを立てることは、なぜ禁じられているかについて語りました。

先週の出席

第一礼拝が四一名、第二が三九名、合計八〇名(男二八、女五二)子ども九名。合わせて八九名。

牧師身辺

十一月八日(土)カナダのバンクーバーから新井由美さんという方が来られました。アメリカの銀行に勤め、ロンドン、ニューヨーク、東京などで長く働いた後、不思議な導きで教会に行き始めたものの、続けるべきかどうか迷っていたとき、インターネットでぼくの記事を読み、がんばらなくていい、弱いままでもいいのだと励まされ、今では、YouTubeで大津教会のメッセージを毎週聴いている方です。これまでメールによる交流はあ

りましたが、お会いするのは初めてでした。英語で教育を受け、英語の世界で働いてこられた方なのに、いただく便りの日本語の文章がいつもていねいなのは驚いていました。今回、お会いして文章のとおりの方だと思いました。妻もとてもよいお交わりができた。と喜んでいました。さっそく、由美さんから、こんなメールが届きました。

米村様、

昨日は田園風景の中の素敵なお散歩で、ドライブで雄大な山の景色を見せていただき、そのあと牧師館ではゆっくりとお話もできていただきました。ありがとうございます。

印象深かったのは、ご夫妻の間に流れる温かい愛情溢れる空気です。長年おふたりが常に同じ世界で歩んで来られたのを感じました。幸

最初に米村様に突然メールでお便りさせていただいたのは、二〇二〇年の五月です。思えば、まだキリスト教に出会ったばかりの私が、全く面識も紹介もないにもかかわらず、唐突にあのようなお便りをさしあげて驚かれたことと思います。その後、何通ものお便りを通して、的確で深いご指導をいただくことができ、おかげさまで何とかクリスチャンになることができました。まだ自信がなく、さ迷っている感じですので、今後ともよろしくお願ひします。

先ほど、電話で、バンクーバーにいる夫に昨日のご夫妻のことを話しましたが、立派な牧師先生と出会えて、幸運だったね、と申し

ておりました。ご夫妻のご健康をお祈りしています。(新井由美)

子さんのご病状が安定されていて、よかったです。大切な方ですので、くれぐれもご自愛ください。